こどもタウンミーティング　中学生の部　（要旨の報告）

日　　時：令和８年８月１７日（月）　１０時３０分～１１時４５分
場　　所：シリウス６階生涯学習センター６１０大会議室
テ ー マ：「大和市の未来～住みたいまちって、どんなまち」
参加人数：２人（市内在住の中学生）
出 席 者：古谷田市長、マーケティング課長、広聴・マーケティング係２名

市長挨拶、オリエンテーション後、参加者から意見聴取。

【参加者】
・大和市の弱点として、これといった観光地が、泉の森しかない。
・都心からのアクセスはとてもよい。
・それを活用し、大和阿波踊りなど大規模イベント時に、鉄道会社にお願いして、臨時特急とかを走らせたりして、都心から人を呼び込むということをしてもらいたい。
・高円寺や南越谷でも阿波踊りをやっており、そこからも人が来て、交流できればおもしろい。
・駅前再開発をしていると聞いたが、最近話題の耐火性のある木造（ＣＬＴ）の中高層ビルを導入してみてはどうか。
・駅前再開発で、高層ビルにするつもりはあったりするか。
【市長】
・大和市は基地があるため、航空法で高さ制限があり、４５メートル以上の建物が建てられない。
・そうすると、１階３メートルとして、１５階建てまでしか建てられない。
【参加者】
・ビルを建て過ぎて都市の景観が損なわれるということは、大和市にはあるか。
【市長】
・高さ制限を厳しくしているところは、京都や鎌倉などの風致地区で、建蔽率なども制限している。
・大和は歴史的なものはそこまでないので、そういう規制はない。
・高いビルが建てられるようになると、固定資産税が増え、住んでいるかたの住民税、企業が入れば法人市民税が増え、税収が増える。
・ただ、景観が悪くなるという考えもある。
【参加者】
・高い建物を建て過ぎてオープン前に取り壊しとなり、結構な損失が出たという事例もある。
・そこは住民とも話し合い、慎重にいくべきと思う。

【市長】
・今、木造で、結構高いビルが建つ。
・鉄筋コンクリートで建てるより壊しやすいし、その後環境にもやさしい。
・木造のほうが地球にやさしいし、循環型社会によいかもしれない。
【参加者】
・木造の高層ビルを建てると、脱炭素の象徴にすることもできると思う。
・東名高速道路付近に、いくつか森林があるが、あそこの森林を取っ払って、工業団地とかにするのはどうかと思っている。
・考えたのが、電気のみで走る、市営のＥＶバスを走らせる。
・それで大和駅から工業団地まで、ＥＶバスでつないでみたり、その工業団地に、環境に配慮した企業を誘致したりしてもよいのかなと。
・人口も増え、大和市はベットタウンとして栄えるのではないか。
・ＥＶバスについて、大和市は高齢者も結構多くなってきていると思うので、福祉施設や、シリウスみたいな公共施設、工業団地、そこを中心に駅からばんばん走らせるような感じにしたほうがよいと思っている。
・大和市は、南部以外は平坦なので、シェアサイクルを導入するのもよい。
・電動キックボードとかにすると事故の可能性もなくはない。
・大和市は自転車が走る道路とかも結構整っているので、導入しやすいと思う。
・プロムナードについて、駅前と比べて回遊性が少ないと思うので、公園や噴水、ベンチなど、その他にもちろん緑化されたものも造って、市民憩いの場として、回遊性を図るということをやってみてもよいと思う。
【市長】
・大和市は観光というところが、泉の森はあるが弱い。
・人が来るのはシリウスやゆとりの森だが、観光地というよりは周りのかたがたが使っている。
・阿波踊りで、東京や横浜から来てもらえるような情報発信は考えていきたい。
・阿波踊りについては、実際に徳島県へ行って視察してきた。
・徳島は人も１００万人以上集まり、連が１００連以上ある。
・高円寺（杉並区）は実行委員会でやっていて、９５連あり、９５万人ほど集まる。
・南越谷は７０連くらいで７０万人ほど集まる。
・大和市は３５連と減っている。
・徳島は県と市（行政）が、商工会議所や経済界の人達と一緒になって力を入れている。
・高円寺（杉並区）は、区が共催で、東京都も後援している。
・南越谷は、市が共催で一緒にやっている。
・大和市はどうかというと、後援であり、あくまでも民間のお祭りとなっている。
・そういったところで、共催という形に持っていったほうがよいかもしれない。
・そのことにより、お金がかかってくると問題があるので、お金は出さないけ

ど人は出すとか、施設を貸すとか、いろんな側面から協力できると思う。
・全部市でやるということではなく、民間の活力で頑張ってもらいたい。
・徳島市長から、大和市が民間ですべてやっているのは素晴らしいことですごいと言われたが、大和市の問題として、だんだんと連が減ってきている現状がある。
・一番いい形を模索している。
・徳島県知事とも話をしたが、大和市ともっと交流したいと言われた。
・今後はもっと交流し、お互いが盛り上がっていく形にしていきたい。
・中央森林地区への企業誘致について、あそこは市の土地ではなく民有地であるため、所有者のかたがたと交流するようにしている。
・そういった交流から、人の気持ちは動いていくと思うし、中央森林地区への企業誘致は考えていきたい。
・ＥＶバスについて、大和駅前の道路はせまい。
・将来を見据えてまちづくりをしていかないといけない。
・平塚市は自動運転バスが走っているが、それは道路が広いからである。
・新しくつくるまちを、それを見据えてつくると自動運転でバスを走らせられる。
・大和市も次世代の形をつくっていかなければならないので、計画を立てていかなければならない。
・バスの運転手不足でダイヤが維持できないという話もあり、将来自動運転でとなったときに、それが可能となる道路整備ができるかどうか。
・それに備えてまちづくりをしていかなければならない。
・プロムナードの回遊性について、人の流れが少ないのはそのとおりで、このことも含め、次につなげるまちづくりをしていきたい。

【参加者】
・私が考える住みたいまちは、大和市をどういうまちにするか、大人と子どもが考えられるまちである。
・住みたいまちイコール行政サービスが多いまちと言われがちだが、大和市は今、財政難で、まずい方向になると思う。
・住んでいる人は、だからこそ、価値を生んで、お金が使いたくなるようなシステムとか、未来も大和市に住みたいと思えるまちにしなければならないと思う。
・課題を大人と子どもが一緒に考えて対話ができることが子どもの権利だが、子どもの権利というと勘違いする人がまだまだ多く、子どもの言った願いを全部叶えてくださいというものではなく、勝手に大人だけで決める前に一緒に考えることが大切である。
・今、大和市の課題として財政というのが一つあると思うが、行政のかたが毎日真剣に考えていると思うが、大和市にはどんな財政課題があって、どんな資源が眠っているのかを、中学生や小学生、高校生に教えてほしい。

・それを教えてもらって、中学生に何ができるのかを、大人と一緒に考えたいと思っている。
・聞きたいことがあり、小学生、中学生、高校生でも解決できそうな課題というのはあるか。
【市長】
・大人と一緒に対話をしながらやっていきたいというのは、そのとおりだと思うし、子ども達が意見を言える場をつくっていきたいと思う。
・子ども達が考えてきた意見を表明することは、非常に重要だと思うので、そういった場はつくっていきたいし、その一環として、昨年、中学生会議を開催した。
・今年度は教育委員会にバトンを渡して、シリウスで８月２６日に実施される。
・今日のタウンミーティングも発意できる場であるが、行政がいる場となる。
・学校で意見表明していきたいか、それとも行政の場で意見表明したいか。
【参加者】
・学校でも行政でも、両方である。
【市長】
・子ども達の目線で考えてもらいたいということもある。
・武蔵野市が「中学生議会」をやっていて、子ども達が自分達で一般質問を作り、議場で質問し答えを聴いているようである。
・子ども達が自分達の意見を言える場所というのは、考えていきたい。
・具体的な意見表明の場として、今日のような夏休みではなく、学校の学習カリキュラムの中で意見表明する場があったほうがよいか。
【参加者】
・総合とかの時間でも、大和市の課題などについて、話せる機会があってもよいのでは。
【市長】
・私も、子ども達から大和市はもっとこうしたほうがよいと、課題や問題について言ってほしい。
・子ども達が自分達で考えた方が、より責任というか意識が向いて、よくしていきたいと子ども達から思っていけるので、そういった議論はしていきたい。
・ファシリテーターのような、しっかりした進行役がいて、子ども達が議論したら、間違った方向には行かないだろうし、言い過ぎや批判的になりすぎたら、ファシリテーターがうまく切り替えていけば、いい議論になると思う。
・そういったことは別途考えたいし、子ども達が意見表明できる場は作っていきたい。
・学校にも話してみたい。
【参加者】
・先日、茅ヶ崎市の「こどもファンド」に、傍聴人として参加した。
・そこでは小学生がつくったプロジェクトに出資して、実際に会議で、企画をどうするかを話し合うというものだった。

・大和市の場合だったら、大和市の未来を作るユースプロジェクトみたいに、大和市の課題を子ども達に渡して、その課題について子ども達が話し合ったら、新しい案やアイディアが出るのではないかと思う。

【市長】

・クラウドファンディングのようなことを大人ではなく子どもがやって、発想が世に受け入れられればお金は集まると思うし、おもしろいと思う。
・引地台中学校が市民まつりの時に、テントを建てて、物を作って売っていた。
・物を売るのはどういうことかを、子ども達と先生がたで考えてやっていた。
・結構売り上げもあり喜んでいた。
・子ども達が「こどもファンド」で、出資者を集めて形にしてビジネスモデルを作るのは、勉強になるし、産業に発展することもあるかもしれない。
・茅ヶ崎市には聞いてみたいと思う。

【参加者】

・質問だが、大和市で今、市外に流れているお金が何億円かあると思うが、例えばどんなことにお金を使っているか。

※何を想定しているかの確認で「ふるさと納税」と確認。

【市長】

・１０億円を超えるお金が流出している。
・交付団体で国から補助金をもらっている自治体は、７５％は戻ってくるが、２５％は出ていくので、２億５千万円を超える損失がある。
・名産品の返礼品で１００億円くらい入ってきている自治体もある。
・ピンチをチャンスに切り替えるために、新しい大和の産業を、これをやったらよいと、子ども達に聞いてもよいかもしれない。

【参加者】

・落ちているごみを自分達で形を変えて新たな形にして飾るなどは、お金はかかず、治安がよくなるかもしれないし、犯罪も減るのではと思っている。

【市長】

・割れた窓ガラスをそのままにしておくと、それが広がっていき荒廃していく。
・ごみが落ちているのをそのままにするのではなく、皆で拾ってきれいにすると、人の気持ちもつながるが、治安の向上にもつながる。
・私がお店を経営していたときに、流木はダムに引っかかるので、そこにもらいに行った。
・そのときに、東電の方が、今まではダムに溜まった流木を捨てていて、廃棄処分するのに毎年、何億円もかかっていたが、今はそれが売れると。
・今までごみだったのが、「流木をあげます」と募集をかけたら、すごい人が来たとのこと。
・今まで廃棄していたものがお金になる。
・ガラスの瓶も、長年に渡り砂などが当たり、表面が丸くなり白く曇ったシーグラスは高く売れ、雑貨などに使われている。
・ごみは人の考え方や価値観で売り物になったりする。

・ごみはそのまま捨てればごみだが、分別すれば資源になる。
・更に分別して活用できる方法を考えていきたい。
【参加者】
・流木について、引地川でもできたりするものなのか。
【市長】
・河川の清掃もしているが、そんなに出ない。
・先程の話は宮ケ瀬ダムだが、あそこは森がすごく、台風などで枝が折れて流れる。
・流木の角が取れて丸みを帯びて流れてきて、アート的なものになる。
【参加者】
・そうなると引地川、境川では難しい。

【参加者】
・大和市のホームページに、意見を言える目安箱的なものを作ってもよいのではないか。
・目安箱は、学校にもある。
【市長】
・「市長への手紙」という制度を導入しており、ホームページからも出してもらうことができる。
【マーケティング課長】
・市役所にも「市長への手紙」を入れる投函箱を設置している。
【市長】
・２４万５千人程の住民がいて、どうしても聴ききれない中、「市長の手紙」で対応している。
・匿名も含め全部読んでおり、必要だと思ったものは職員を呼んで指示を出している。
・できるものは職員がすぐに対応している。
【参加者】
・気付いたことがあれば書きたいと思う。

【市長】
・昭和の時代は企業が大きな工場を造っていたが、今はそういう会社だけでなく、ＡＩなどの次世代的な会社は、そんなに大きな場所はいらない。
・大和市は今、人が集まる、住みやすいまちで、人口が多いことが売りになっている。
・宇宙関連の会社が中央林間にあるが、なぜ中央林間と聞くと、大和市は人口が増えていて、若い人がいるからということであった。
・人は宝、人財であり、それが得られやすい。
・もう一つは、災害に強いというか災害時に安定している。
・川の氾濫とかは気を付けなければならないが、他市と比べても被害が少ない。

・そういったところが選ばれる理由とのことである。
・今、世界基準で選ばれる理由として、安全や食文化もそうだが、おもしろそうであったり、興味がありそうなことは発信していかなければいけないと思っている。
・大和市は子育て王国で、子育てしやすいということは大事にしていきたいが、企業からも活気があって大和市はおもしろそうだと、何か企業から選んでもらえるような選択肢を増やしていきたい。
・瀬谷の博覧会後のテーマパークは、ジャパンコンテンツを集めた世界から喜ばれるテーマパークになるのではと言われている。
・そうなると市外、県外、国外から集まってくる観光客の受け皿になる大和市は、おろしろい仕掛けをプロムナードでやっていきたい。

【参加者】
・瀬谷で行われる博覧会は、大和駅からシャトルバスを運行できないか。
【市長】
・花博は国の事業でもあるが、横浜市の事業なので、大和市は協力、支援などとなり、大和市が一緒にというわけにはなかなかいかなく、横浜市は横浜市の事業としてやるからにはというのがあり、大和駅からのシャトルバスは提起をしたが、横浜市としては、そこまでは大丈夫とのことであった。
・光ヶ丘の交差点などはこれから県に言って整備をしていくが、今のところ、横浜市としては考えていないとのことである。
・私が今、横浜市に言っているのは、歩行者や自転車走行者の安全もあり、大和市の生活道路に渋滞の抜け道として車が入ってきて、車が動かなくなり１時間、２時間と渋滞が発生するというのはあり得ないので、それだけは考えてくださいということである。
・横浜市もそこは渋滞しないように、車が行かないようにとは言っているが、そこはしっかり話し合っている。
【参加者】
・花博が終わった後、テーマパークができると思うので、そこが大和市にとって最大のチャンスになる。
・ＬＲＴ（次世代型路面電車システム）でもシャトルバスでもなんでもよいので、大和市から走らせられるとよいと思う。
【市長】
・それはそのとおりで、現状、オークシティの駐車場に車を停めて、そこからバスで行くというのは、県がそれで動いており、その経路はできる感じである。
・あと、できることは、大和市のコミュニティバスを増便して、深見の方から行けるようにしたいというのは考えている。
・渋滞がすごくなったときに、コミュニティバスが臨時便で走れないかなとか、県や横浜市と話している。

・将来、テーマパークができれば、大和市にとってはチャンスだと思うので、既存施設を最大限活用し、厚木基地も民間空港として使えるようになれたらよいなと思っている。
・時間はかかるが、民間機も利用できるようになればよいなと思っている。

以上